

令和4年度第2回花巻市立図書館協議会 会議録

1 開催日時

令和4年11月25日(金) 午前10時00分～午前11時45分

2 開催場所

花巻市立花巻図書館 会議室

3 出席者

(1)委員(9名)

佛川恒明委員、菅原俊博委員、堀合範子委員、畠山孝子委員、
高野橋加子委員、熊谷恵委員、坂本知彌委員、佐藤三恵子委員、
佐藤可那実委員

(2)事務局(10名)

市川生涯学習部長、佐々木生涯学習課長、梅原花巻図書館長、
小原大迫図書館長、辻村石鳥谷図書館長、久保田東和図書館長、
高橋新図書館計画室次長、高橋花巻図書館副館長、黒澤石鳥谷図書館主査、
千葉花巻図書館司書

4 欠席者

3名(安部修司委員、中里美香委員、及川智子委員)

5 傍聴人

1名

6 議題等(議事録)

◎会議成立の報告(高橋花巻図書館副館長)

- ・委員12名のうち9名出席。出席委員数が構成委員の過半数を超えているので、花巻市立図書館協議会規則第7条により、本会議が成立することを報告。

1 開会(高橋花巻図書館副館長)

2 あいさつ(坂本会長)

皆様おはようございます。

とてもいいお天気です。そして、この会議室の壁面がきれいに装飾されて季節を

表していて、ここで子どもたちの読み聞かせも行われていますが、（子どもたちも）うれしいだろうなと思っております。

（今日は）何かいいお話が聞けそうな気がしますが、一方、総合花巻病院の旧跡地、建物が撤去された跡地をこの間見る機会がありました。（地面が）でこぼこして、ここに建つのかなあとと思って、道路が狭いなあとかいろいろなことを思いましたが、計画室の方々、市川部長さんはじめ皆さんがとても精力的にあちらこちらで説明会を開いてくださっております。今は、産みの苦しみの時だと思います。みんなの英知を結集して、1日も早く図書館ができることを願っております。それでは、今日はどうぞよろしくお願いいたします。

3 議 題

（1）令和4年度花巻市立図書館の事業実施状況等について

- ・令和4年度花巻市立図書館の事業実施状況について、（令和4年10月末までの実施状況を）花巻図書館から順番に各館が説明。

花巻：梅原館長、大迫：小原館長、石鳥谷：辻村館長、東和：久保田館長
（質 疑）

（○坂本会長）

コロナの中、合間を縫っていろいろな行事をやっていただいて、本当によかったな、やれるようになってよかったなと思っております。これに対してのご質問ありませんでしょうか。

すみません、私から。東和図書館の企画図書展「好評だったので、再び…貸出し0回の本」展、好評だったのでもう1回というのですが、そんなに貸出し0回の本がいっぱいあるのですか。

（○久保田東和図書館長）

去年の時点で、それなりの数はあったようです。（今資料がないので）ちょっと冊数までは覚えていませんが、ただ貸出しが0回ですので、館内で利用されている可能性は十分にあるのですが、去年（の展示で）貸出しされた本がありますので、去年よりは冊数が減っているかと思えます。

（○坂本会長）

埋もれている本の紹介ということで、こういうのもいいなと思いましたので。ほかにご意見ありませんか。はい、堀合委員さん。

（○堀合委員）

この資料に載っていること以外のことですけれども、移動図書館のことをお伺いしたいんですが、私は石鳥谷地域に住んでおりまして、地区に月1回移動図書館が来ます。広い地域を巡回しているので、うちの地区に限らず一つの地区10

分。私もいつか利用したいなと思いながら、ちょっと日程が合わずにおりましたが、その利用状況というのはどのようになっておりますでしょうか。だいたい把握しているところで結構です。

(○辻村石鳥谷図書館長)

資料を持っていないので、人数までは把握していませんけれども、毎月6回、各地域を回ったり、保育園や小学校へ通ったりしています。

(○堀合委員)

だいたいこのところで(結構です)。あまり利用者がいないとか、学校は(利用者が)あるんでしょうけれども、地区のところでどんな感じなのかなと思いましたが。

(○黒澤石鳥谷図書館主査)

多いところだと、4、5名の方が常に使っていただいている場所がありますし、少ないところだと、誰もいらっしゃらないというところもあるのですが、利用される方を見込んで、地域の方が使っていただければなということで、利用がないところも回っている状況です。

(○堀合委員)

関連しまして、どうしてこういうことを申しましたかと言いますと、せっかく回っておりますが、確か「この地区には何月何日に行きます」という班の回覧が1年に2回くらい回っているんですが、「移動図書館はいつ来るのでしょうか」と、実はうちで今区長をしております、そういうことを聞かれまして、関心がある人いるんだなと思ひましてね。それで、私勝手に掲示板に「何月何日何時から何分に来ます」というように書きましたが、もったいないなと思ひまして。例えば、あるスーパーの移動販売車などは、遠くから音楽を流して来るわけで、音楽とか放送を流すことについて「せっかく静かにしているのに」と異論がある人もいるかもしれませんので、そこまでは要求しませんが、「今ポラーノが来ています」ぐらいの放送を1、2回ただけでも、近所の人たちが行くのではないか、もったいないなと思ひまして。

(○佐藤三恵子委員)

放送していますよ。私も利用していますが、結構遠くから(聞こえます)。

(○堀合委員)

わかりました。ありがとうございます。ここで解決しました。よろしいです。(移動図書館車は)お年寄りとか、とても助かると思ひますので、ぜひこれからもよろしくお願ひします。

(○佐藤三恵子委員)

(移動図書館車は)ひと頃より、新しい本が入るようになったという印象で

す。前はあまり代わり映えのしない本が乗ってくるなあと思っていましたが、ここ何年か前から、結構新刊本とか、「あっ、こういうのも入れてくれているんだ」みたいな本があるので、利用すれば結構充実していると思いますし、遠くから図書館に行けない人は、「これを読みたい」と（移動図書館車に）乗っている司書さんに言うと、「次の巡回までに用意しますね」というようなこともできるので、利用の方法をもっと周知して、そういうようにして本を借りられるんだということを地域の皆さんに浸透するように広報していけば、もうちょっと利用者は増えていくのではないだろうかと思われまます。

(○堀合委員)

ありがとうございます。

それからもう1点ですけれども、感想です。やはり石鳥谷図書館の本のリサイクルなんですけれども、私は本のリサイクルのために（図書館に）行ったのではなかったのですが、たまたま本のリサイクルに行きましたら、10時前でしたけれども結構たくさんの方が来ておまして、10月でしたけれども、その期間に2回ほど図書館に行きましたが、2回目も結構人が集まっておまして、本を見ましたら新しい本もありまして、私もいただいてきましたがとても簡単で、「この本を」と持っていったら、「どうぞ」と、それで終わりです。とても新しい本で、皆さんが楽しみに待っている企画なんだなと思って、大変いいことだなと思って、感心して、これからも継続してほしいなと思っております。

(○坂本会長)

ほかにございませんでしょうか。それでは議題の1番を閉じてよろしいですか。

では、議題の2番に移ります。「新花巻図書館の整備について」お願いいたします。

(2) 新花巻図書館の整備について

- ・新花巻図書館の整備について、市川生涯学習部長がこれまでの検討会議の経過や今後の予定等を資料に基づき説明。

(○市川生涯学習部長)

新花巻図書館の整備について、ご報告をいたしたいと思えます。

前回の図書館協議会でも少しお話をしていたかと思えますが、10月から各地区において市民説明会を開催しておりました。昨年度から、図書館の基本計画の試案についての検討会議をさせていただいております、図書館協議会の中からも委員として参加いただいておりますが、その試案検討会議の中での状況を説明しながら、市民の皆様説明をするという会を開いておりました。10月11日

から27日までは、各地区において市民説明会を開催いたしまして、オンラインも2回含め17回であります。そして、引き続きまして、関係団体あるいは高校にも説明をしているところでありまして、現段階ではまだ途中でございます。今回は、市民説明会で説明した資料についてと、市民説明会についてご説明したいと思っております。

資料はA3判の「資料1」と書いてあるものと、「資料2」と書いたA4版横のものです。説明会では主に「資料1」を用いまして説明をしてきたところでございます。

これまでご説明してきておりましたが、若干、主旨と資料についてご説明したいと思っておりますけれども、先ほど申しましたとおり、昨年度令和3年度から図書館の基本計画の試案を検討する検討会議を20名で設置いたしまして、検討してきたところでございます。今年度はこの試案検討会議の中で、建設場所の議論もしております。具体的には花巻駅前のスポーツ用品店の場所と、先ほど会長さんおっしゃいました旧総合花巻病院の場所、2か所に意見が集約されてきたというように考えておりましたが、試案検討会議の中ではスポーツ用品店の敷地を希望する意見、またはどちらもいい場所だという認識の中から、どちらかといえばスポーツ用品店の敷地を希望するというような意見が複数ありまして、多かっただと捉えております。ただ、駅前のスポーツ用品店の場所はJR東日本が所有する土地でありまして、JR東日本は基本的に土地を売買しないという方針ということだったので、市が図書館用地として必要であるということであれば、土地売買の協議には応じてもいいというような意向を示してもらっているという状況です。花巻市が建設地の絞り込みができないうちは、具体的な協議にはならないということも言われておりますので、これらを市民の皆様にご説明して、駅前のスポーツ用品店敷地に整備する案をこれ以上進めるためには、JR東日本と協議を進めなければいけないという状況でありますので、面積や価格など交渉に応じてもよいというような段階から、もう一歩踏み込んで、具体的な条件のお話を聞きたいということについて市民に説明したというようなことでございます。説明会では、試案検討会議で新しい図書館のサービスや機能などを検討してきたわけですが、その内容を説明するとともに、先ほど来申しておりますJR東日本と具体的な交渉をしたいということを説明したものであります。

そのための資料としてこの「資料1」であります。現花巻図書館が開館から49年経過しておりますということで、花巻市内の4図書館の中では一番古い図書館ということでございます。平成29年8月には、新花巻図書館の整備基本構想という根幹になるものを策定しております。これは、市民参画、図書館協議会でも議論いただきました。あとパブリックコメント、市民説明会も経て策定した

ものが基本構想としてありますということです。新花巻図書館整備基本計画試案検討会議において、計画試案について現在協議中ですということです。

「花巻図書館の現状と課題」ということですが、先ほど来申し上げておりました昭和48年に建築でありまして、これの前の図書館は市役所前にまだ建物はありますけども、鐘撞堂の横にある、市民体育館の前にある石造りの建物です。これは市内の企業の方が寄附してつくったという図書館でありました。こちらに移転してきたのが昭和48年でありまして、花巻農業高校があった場所に図書館を移転してきたというところでは、延べ床面積は1,304.03平方メートルです。蔵書数は令和3年4月1日現在で201,465冊です。開館時間は9時から18時というようになっております。主な課題としては、施設の老朽化であります、狭く使いづらいということがあります。主な閲覧室が2階でありまして、高齢者や子育て世代が利用しづらいというものがあります。移転したときは、たぶんそれでもよかったですと思いますが、現代の図書館としては、エレベーターがないというのは少し利用しづらいというようになっておりますし、老朽化で各設備なども古くなってきているというところがあります。貸出し、レファレンスサービスが不足、最近の図書館ですと貸出しのカウンターも複数あったり、レファレンス専用のコーナーがあったりするということがありますので、そのあたりが不足していると捉えておりますし、小中学校との連携不足というのも、試案検討会議の中でご指摘をいただいております、それらも強化したいというように考えているものです。あと、蔵書数の不足、デジタル化、今タブレットで電子的にも貸出しをしている図書館も増えてきておりますので、そのようなものへの対応が課題というように捉えております。

2番ですが、「新花巻図書館整備基本構想」、平成29年8月に定めた基本構想ですが、基本方針としては、市民一人ひとりの生活や活動を支援することを基本に次世代を担う子どもの読書活動を支援し豊かな心を育てる施設として、情報を地域や産業の創造に結びつける施設として、まちや市民に活力と未来をもたらす図書館を目指し次の3つを基本方針としますというように定めております。

「郷土の歴史と独自性を大切にし、豊かな市民文化を創造する図書館」、「すべての市民が親しみやすく使いやすい図書館」、「暮らしや仕事、地域の課題解決に役立つ知の情報拠点としての図書館」という3つであります。また、この基本構想の中では、建設場所に関する方針として、図書館として利便性の確保、交通アクセスが良く、わかりやすい場所、市全域から行きやすい場所、十分な図書、十分な駐車場が確保できる場所というように定めておりました、もう一つ、市街地再生に資する施設として都市機能誘導区域内というように定めております。都市機能誘導区域につきましてはこれまでもご説明してきたと思いますが、「資料

2」の15ページに書いておりました、花巻駅からまなび学園も含めて、市役所、また、上町、豊沢町、東町方面までという、青色で囲んだ区域であります。こちらに移転すれば、国の補助金を受けることが可能であるという区域でありまして、この区域への移転というのを基本構想の中では定めているというものであります。

3番ですが、「新花巻図書館のサービス」ということで、サービスについても試案検討会議で検討してきたものでありまして、サービスの基本、①は図書館でありますので資料と情報の収集・提供を基本といたしますということです。図書館で得た知識や情報を次につなげることができる、紙媒体と電子媒体を相互補完的に収集・提供すると。紙以外の電子図書についても、電子図書、あるいは電子資料というのもありますので、そういうものを収集・提供する、図書館サービス網の中核としての役割を強化する、子ども読書の支援、学校図書館と連携を拡充する、郷土資料や先人資料を充実、特に宮沢賢治に関する資料の収集を強化する、イーハトーブ館や博物館等市内施設等の資料の検索・閲覧・貸出サービスを検討する、イーハトーブ館には賢治に関する貴重な資料や論文、映像についても収集しておりますので、連携をとれるようにしたいというようなことです。すべての市民が気軽に利用できるくつろぎの場、交流の場、市民の広場、いつ来ても楽しく、知的好奇心を育む場所、レファレンス・相談支援機能を強化する、インターネットによるサービスと新しい技術を導入する、行政に関する情報提供サービスを充実するというような項目でサービスを検討してきたものであります。詳しくは、先ほどの「資料2」に書いておりますので、ご覧いただければと思います。サービスの種類としては、「閲覧・貸出」や「レファレンス」、「情報発信を強化」などサービスの種類ごとにもまとめて記述しているものであります。そして、利用者の視点に沿ったサービスということで、利用者の対象別に、乳幼児児童とか、ティーンズというのは10代ですけれども、高齢者向けにはどうするということに定めております。これも「資料2」に詳しく書いておりますのでご覧いただければと思います。

4番は「図書館サービス網と新花巻図書館の役割」ということで、中央館の役割として役割と機能を強化したいというものでありまして、現在も花巻図書館が4館の中央館という位置づけではありますけれども、それをもっと強化していきたいということで、文化施設、先ほど申しましたイーハトーブ館や博物館との連携、資料の把握、あるいは富士大学とか県立高校の図書館との連携、小・中学校とか、学童クラブとかですね、保育園なども連携していきましようというようなご意見をいただいております、そういう子どもの施設との連携、あとは国立国会図書館などの資料・データの連携なども図っていきたいというようなもので

ございます。

裏面にいきまして5番「施設の規模」です。これまでもお話ししておりますので概要ですが、新しい図書館は約4,500平方メートルの床面積を考えているというものでありまして、現図書館が約1,300平方メートルですので、3倍ぐらいということでありまして、最近つくりました一関図書館がほぼ同じぐらい、少し大きいですが同程度というふうにイメージとして捉えていただければと思います。4,500平方メートルというのは、人口規模などから、図書館の統計データから、大体これぐらいの数字がいいのではないかというふうに考えておりますし、そのほかにも必要な施設の積み上げで、ほぼ4,500平方メートルというふうにしております。「エントランススペース」というのは入り口ですが、200平方メートル程度。喫茶や飲食可能なスペースが欲しいというようなご要望、ご意見はかなりありますので、そういうようなものも入り口に設置できないかということを考えていますし、「開架・閲覧スペース」2,200平方メートル、これもほぼ一関図書館と同じぐらいの規模です。「閉架書庫スペース」800平方メートル、「その他スペース」800平方メートル、「図書館業務スペース」が500平方メートルというような、ざくっとしたのですがこれも細かい積み上げのもとにやっております。「その他スペース」としては、例えば、多目的ギャラリー、ギャラリーにもなる、会議室にもなる、学習室にもなるような部屋がほしい、あるいは、会議室とかですね、グループで使えるような部屋、あるいはコーナーなども考えております。閲覧スペースの中ではありますけれども、最近の図書館は静かな空間だけではなくて、特に子ども向けの図書を置いているコーナーですと、少し声を出したり騒いだりしてもいいようなコーナー、一方で、全く静かに本を読むような静粛室とかですね、そういうような部屋を設けているような図書館もありまして、いろいろな需要に応えられるような図書館にしたいということを市民の皆様にもご説明してきております。

「蔵書構成」ですが、蔵書構成は現図書館から引き継ぐ資料や新たに購入が必要な図書というのを現在精査中であります。「広い分野の収集」ということで、一般図書、児童図書、ティーンズ10代向け、高校の図書室など最近高校に行ってみる機会がありましたが、やはり高校の図書室というのは、高校生向けのものというか、いわゆるライトノベルとか、科学的なものとかですね、学校の授業に役立つようなもの、あるいは実業高校ですと、食物や健康、具体的な農業や農薬など、そういうような本がありまして、我々の気がつかなかったなというようなところが最近面白いなというふうに思っております。そういうティーンズ向けとか、やはり多種多様な図書、広い分野のものが需要ではないかというふうに考えております。「先人や郷土資料の収集・保存」。宮沢賢治を始めとした、先人に

関する著作や研究資料も含めて、収集保存していきたいというものです。「視聴覚資料や電子資料の活用」。新しいメディアに対応した資料を収集していきたいと思っております。

7番「運営コスト」ですが、これもお示ししておりますが年間約2億円程度を見込んでいるというものでありまして、図書購入費が5,000万円ほど、司書など人件費が9,400万円ほど、光熱水費・固定費が5,000万円ほどというように見込んでおります。これはあくまでも現段階の試算でありまして、電気料金も高くなったりいろいろしますし、かといって固定費はなかなか減らせないということもあろうかと思いますが、今後の経済状況を踏まえますと、このまま継続できるかどうかはわかりません。今、まずは試算した状況ではこのぐらいではどうかというものでございます。

8番、建設場所についての検討内容ということでご説明をしております。これは仮に配置したときの案ということで、これで決まったものではありませんし、J R花巻駅前のスポーツ用品店の敷地に決まりましたということでの説明会ではありません。J R東日本、先ほど申したとおり、土地の交渉に応じてよいという方針はいただいておりますが、具体的にどこまで購入に応じていただけるのか、あるいは価格などについてもまだ全く交渉しているわけではないので、これからここを候補地として、有力な候補地として交渉していきたいということの説明がありました。

(資料の)左側です。スポーツ用品店の場所に、二階建てで配置するという案でありまして、これまでの議論の中では、緑なども欲しいということで、例えば芝生広場をここに設置したらどうかとかですね。駅前ですと立体駐車場にしたいということでありまして、立体駐車場をこの黄色い部分を立体にすると。②と書いてある60台のところは今ある駐車場です。これは平面でそのまま残すと。あと図書館に近接した場所に、これぐらいの大きさですと22台平面駐車場はできると。高齢者障害者向けでもいいですが、22台できるのではないかと試みに配置したものであります。

一方で、スポーツ用品店と、総合花巻病院跡地についてもいいのではないかとという意見、この2つぐらいに意見が集約されてきたところですが、総合花巻病院の跡地ですと、北側に建物を配置する案であります。南側は病棟と看護学校等が、この濁堀底面部とありますが、ここはお城の堀になっていまして、この堀の上とつながりような形で、病院が建てたところがありまして、そこは建物を撤去した関係で、南側の方はちょっと掘られたような感じになっていて南側に建物を建てるのは難しいというように言われています。土をかなり盛らなければいけないと。なかなか盛土の上に建てるのは厳しいだろうということで、建てるのであれば

この北側の方。北側も若干斜めになっているんですけども、建てるとしても北側の方だろうということで、配置したのがこのような案でありまして、北側に建てた場合は、建物を二階建てで建てることができると。あと、駐車場も配置することができるというようなことを説明してきたものであります。

詳しい資料につきましては、資料2でもう少し詳しく説明しておりますので、そちらもご覧いただきたいと思います。ということで、市民説明をしてきております。

市民説明会と、今行っております団体との説明、市内の高校6校にもすべてに説明をしたいというように考えておりまして、今途中であります。これらを含めまして、ご意見をまとめた上で、試案検討会議を開催して、そちらで状況を報告して、その上で今後どうしていくかということを経験していきたいというように考えているところであります。

以上説明終わります。よろしくお願いいたします。

(○坂本会長)

ありがとうございました。今ご説明いただいたことに関する質問はございませんでしょうか。はい、高野橋委員さん。

(○高野橋委員)

だいぶ学校図書館との連携というところが、課題のほうからも出てきて、構想のほうからも出てきているんですけども、質問というよりはお願いですが、まず候補地をどこにするかとか、それを決定してから学校の図書館のことに取り組んでいくというのでは遅いんです。同時進行という形で、すぐ今から始めないと、おそらく開館する頃に間に合うかどうかと私は思います。

理由として、私は20年ぐらい学校図書館のほうでボランティアをやっているんですけど、平成28年から4年間、地域コーディネーターという、今各学校でコミュニティースクールというので、その学校と地域をつなぐというコーディネーターというのを4年間やったんですが、その時、一応司書の資格を持っていますので、まず学校司書の仕事をしながら、そういうところに入っていったんです。

やってみて、学校図書館って本当にちょっと特殊なところなんですよね。教育委員会の中の学校の中にあるけれど、図書館は生涯学習課のほうにもつながると。その橋渡しをするということで、司書の仕事も公共図書館の司書とはまたちょっと違ってくる。そういうことも含めてははっきり言えますけれど、物置状態になっているところも多いですし、コロナになってからボランティアが入れないという学校が多くなっています。不思議なのは、仕事としてやっていけば入れるんですよね。地域コーディネーターの方は普通に学校に今出入りされていますよね。ボランティアになってしまうと同じやることでも入れないんです。やっぱり

生涯学習課のほうとして、学校図書館に入って、今から現状把握をしていかないと、ちょっと間に合わないのではないかと思うので、そのへんよろしくお願ひしたいと思います。

(○坂本会長)

市川部長さん。

(○市川生涯学習部長)

はい、ありがとうございます。なかなかやっぱり学校図書館というのは、別の法律に当たるといふところもあってですね。そのとおり今、学校の図書館の図書が花巻図書館の図書とリンクされているかといふと、されていないんですね。学校にある図書は別な図書というようになっています。そのあたりも、委員の皆さんからは課題としてありまして、きちんとリンクして、例えば学校で子どもが花巻図書館にある本を借りられる、学校で返せば（花巻図書館に）返せるとか、理想はそんな感じではないかなといふふうに思えるんですけども、そういくにはやはり人員もかかる、お金もかかるということがありまして、なかなか今の段階でそれにスタートを切れるかといふと、難しいところがあります。

ただ、新しい図書館をつくと、それなりに設備や人員も配置するという機会であるわけですから、今その基本計画をつくっている中で、強化していきましょうという議論になっているわけで、今すぐに学校に司書を配置して、すべてリンクさせようとなると、そう簡単にはいかないといふのはご理解いただきたいと思います。ただ、それは努力してやっていきたいということで、教育委員会とも話しておりますので、ご意見として承りたいと思います。

(○高野橋委員)

はい、ありがとうございます。

すみません、何でそれを言ったかといふと、学校にコーディネーターの方が入っていらっしゃるの5校、4校かな。そのコーディネーターの方たちに学校図書館の仕事をやってもらっているらしいですよ。たぶん私が最初にそれをやったから、そのまま継続という形になったとは思いますが、廃棄本もすぐやらせているんです。ただ、ちょっとこういった言い方だと失礼ですけど、司書の目で見ないと、廃棄本ってなかなか難しいんです。結局困って、私のところに「どうやったらいいか」と連絡が来るんですね。それで話を聞いていると、ちょっとまずい方向に向かっているなという懸念がありましたので、今、意見を述べさせていただきました。

(○坂本会長)

はい、ありがとうございました。

教育委員会でも、学校の図書関係を回る職員さんをお願いしているというよう

に存じ上げているんですけれども、そして、図書館との連携も始まっているというようには聞いているんですが、そのへん、梅原館長どうでしょう。

(○梅原花巻図書館長)

学校図書館支援員ということで教育委員会の学校教育課に先生がおひとりいらっしゃいます。前より市立図書館と中学校や小学校との連携展示が進んできたのは、その先生が橋渡しをしてくださって、以前は小中学校との連携展示はあまり行っていませんでしたが、少しずつそういった連携は進んでいますし、選書などで困ったという学校から、例えば寄附いただいたけれど、どんな本を選んでいいかわからないとか、本の並べ方とか、そういった話を学校図書館支援員の先生から聞いて、市立図書館各館でご支援したということはあるんですが、どうしても声を上げてくださった学校との連携になってしまって。各学校さんには（やるべきことの）優先順位があると思いますし、教育委員会と相談しながらということもありますから、なかなか難しいところはありますけれども、学校図書館支援員の先生とは引き続き連携しながら、頑張っていきたいと思います。

(○坂本会長)

以前よりはいくらか進んでいるっていうことですよ。では、学校現場から。佛川委員お願いします。

(○佛川委員)

学校現場ということですので、湯口小学校の状況をお話ししますと、まずは誤解が生じないようにということですが、地域コーディネーターさんというのは名前が同じなんですが、以前の地域コーディネーターさんと現在の地域コーディネーターさんとは、配置の目的、その他一切違います。私が赴任する前の地域コーディネーターさんは一部特化した部分があります。今回の学校運営協議会というのは、地域とともにある学校をつくっていくということで、図書館に限定したのではなく、さまざまな学校の諸問題を解決するための地域コーディネーターさんですので、その中で今の地域コーディネーターさんが行っているのは、まず学校を知り、小学校の現状や中学校の現状のすり合わせをしながら、その中に入って見て、ちょっと動いてみて、とにかく学校を知り、学校のことを発信していきたいということで、今やっけていただいております。

学校図書館はそのとおり、市の図書館とは目的も中身も違うものですので、なかなか専任の司書さんいませんし、司書教諭の免許を持っていても、必ずしも司書になるかという、学年、それから中学校によっては教科その他もあってですね、免許があって学校の司書ができるという現状にもないといったところもあります。そういった中で、どう運営していくかということについても、それぞれの学校でさまざまな課題を学校の人員で、スタッフでどう運営していくかといっ

たところで、そのとおり四苦八苦しておりますが、現在行っているところです。
以上です。

(○坂本会長)

急に振ってすみません。ありがとうございます。

菅原委員。

(○菅原委員)

たぶん中学校のほうが小学校より図書館の利用が少ないと思います。本を読むということに限定して読書センターとしての図書館機能よりも、中学校の場合には学習センターとしての図書館機能のほうが強いからです。ただ、タブレットが入ったので、すぐ調べられるという利点がある反面、本でなかなか調べないというところがありますが、本できちんと調べると、これは大事な学習ですので、そういう面で中学校はどちらかというと学習センターとしての機能が大きいんだらうなと思います。ですから、市立図書館に求めることも、本を読むということもなんですが、それ以上に必要な資料がそろってあってほしいなということと、それが簡単に手に入るというシステムというものがあればいいなというのが、たぶん中学校の本音だらうと思います。

私は一関で市教育委員会の担当だったので、(一関のシステムは) 図書を図書館に頼むと学校に来るというシステムなんですけど、とてもお金がかかる事業です。旧東磐井地区がやっていたのですが、文科省の指定で、文科省でお金を出してくれたので、大きなコンピューターが入って、それでいろいろできました。でも、文科省がもう補助しないとなったならば、立ちいなくなっていくというのが現状で、当時は一関市と藤沢町で協議会があって、そこでお金を出し合う、生徒数何人割という、それでもそこに、例えば常勤していた専門職の人が2人いたんですが、1人雇用できなくなるというような状況ということで、いろいろやっていくとお金はかかるので、そのへんのところはやはりいろいろ知恵を出しながらやっていく必要性はあるんだらうなと思いますが、中学校の場合には、できれば一番いいのは、家にいて、この本調べ物をしていて必要になった、こういうこととの関係の本が欲しいとか、見たいなといったときにタブレットで見れるのがいいなど。わざわざ図書館に行かなくても、電子書籍みたいなもので、見てそこで調べることができる、あるいは読めることができるというものになっていくためには、新図書館ができるあたりに、そういうシステムを構築してもらって、使えるようになれば一番いいかなと。ただ、今現在欲しいのはやっぱり司書さんが欲しいなと思います。そして、一週間に一遍でも二編でも三編でもいいので来ていただいて、生徒が必要とする資料はこのへんにあるよとか、こういうところを調べるといいよというようなことまで言っていただければ、すごく助かるなと思

っています。以上です。

(○坂本会長)

はい。お金がかかるということで、でも、欲しいときに欲しい資料が手に入るというのはすごく魅力的ですよね。やっぱりそうあるように、いろいろな面でそうあるように、検討に検討を重ねて作るのだから、中身もしっかりとそのへんのところも充実したようにできたらいいなと思います。

よろしく願いいたします。

ほかにご質問、ご意見ございませんでしょうか。佐藤（三）委員さん。

(○佐藤三恵子委員)

学校図書館についての話題が出たので、それに関連しますけれども、今子どもが本を読むのが少なくなっているということに対して、（日本全国）子ども読書年からずっと、その支援をどうしていくかということをテーマに活動しているわけですが、1年間にわずか数冊だけ読む機会があるならば、優れた本に出会わせてあげたいと思うのが親心で、では優れた本とはどういうものなのかということを考えていくと、もう既に東京や大阪のほうで、ずっとそのことを考えてきた方たちが子どもにはこういう本がいいんだよっていうので、児童図書館蔵書目録ですか、この前、ここでご紹介したブックガイドとかを出版しているわけですね。そして今、（ブックガイドが）4館全部に入ったわけなんです。このリストを活用するために、私はこれ全部、200冊蔵書検索しました。その結果、花巻管内の4館の蔵書傾向というのが見えてくるわけですが、合併前の、平成18年に合併してますけれど、合併前はそれぞれの町で図書館運営をしていたわけですね。そうすると、東和図書館の蔵書状況というのが、東京子ども図書館の児童図書館蔵書目録にも関連するんですけど、優れているんですよ。東和図書館にはかなりいいものがそろっていて、しかも開架に置かれている。これはどういうことかという、その町独自で図書館運営していたときに、図書館司書を育てる、あるいは継承してきたものを次の人に渡すというシステムができていたのではないかなというふうに私は捉えているんです。図書館司書が優れていて、見る目があった。この本は長期にわたって子どもに読まれる本だというのを買っていった。現在、それから年数が経っていますけれども、今も開架にあって貸し出されているということなんじゃないかなというふうに思っています。そして、花巻図書館はたくさん持っているのだけれども、たくさん持っているがゆえに、新しい本をどんどん買うがゆえに、いい本とされている本が書庫に入っているんです。私が調べた、これにも書いていますけど、こうなってくると、花巻図書館を利用している子どもたちが、書庫に入っているがゆえに、いい本に出会えていない、出会うチャンスを失っているということも考えられるわけですね。

私は図書館協議会にいてだいぶ長いんですけど、外側の建物についてどこに建てるか、どこの場所にするかということを実際に皆さん時間をかけて話し合っているわけですけども、本の内容をどういうふうにご利用していくのかということに対しての議論は全く、私が考えるには足りていないなというふうに思うわけです。それで、優秀な人材を採用して、子どもの時代は短いから、子ども時代を充実した読書環境にするためには、その知識がある司書を各館ひとりずついるという、市の職員の司書がいるというのが理想的じゃないかなと思うんです。ところが、現在花巻市の職員の図書館司書がひとりだけです。あとはみんな臨時職員ですよ。業務係長をしていた方も、何年か司書資格のある方がして、図書館協議会にも出ていらして、私もその方がずっと図書館で働く人だと思って厳しいことを多く言いましたけれども、いなくなってしまうと、どうしてなんだろうと。外側のことではなくて、内側の図書館運営に対して、こんなに「こういう図書館にしよう」と具体的なことがいろいろ書かれているのに、これを実践していく司書を大切に育てていくという考えが花巻市にあるのかということをお聞きしたいと思います。以上です。

(○坂本会長)

はい、ありがとうございます。市川部長さん、お願いいたします。

(○市川生涯学習部長)

私も答えられる範囲ですけども、司書はひとりだけではなくて、正職員の司書はほかにもいます。花巻図書館にもいますし、新花巻図書館計画室にもふたり配属していて、花巻図書館と兼務してる職員もいます。そして、蔵書計画など(今の花巻図書館から)引き継ぐ部分を検討したり、中身も検討しているという状況です。おっしゃるとおり、司書の育成というのは本当に重要だと思います。それは、まさにこれまでそうしてこなかったというところがあると思います。それはあると思うので、これから新しい図書館をつくる、実は10年前からつくろうということやってきたわけですけども、そういう中で(司書の)採用もして、増やしていく必要もあると思いますし、ただ司書の資格があるだけでいいというわけではないと思います。きちんとスキルアップして、レベルアップをして、全体を見れるようにして、育てるとするのは大切だと思いますので、そこはやっていきたいと思っています。

(○佐藤三恵子委員)

司書資格があっても優秀ではない人もいれば、司書資格がなくても優秀な人がいる。臨時職員であろうが、市の職員(正職員)であろうが、世の中いろいろあるわけです。よくわかりますけれども、図書館を利用する市民とすれば、図書館で働いている人はみんな同じなわけです。市の職員だと思って。だけれども、中

にはスキルを持っていない人も含まれるわけでしょう。何か質問をしたときに、「えっ？」というような答えが返ってきたりするわけです。そういうことが問題だなというふうに私は個人的には思っていて、図書館の業務をする人がこの会議に出て、私はここで何回もいろいろなことを言っているけれども、運営側の人が、私の話はたぶん「佐藤さんがそう言っているのね」で終わるんです。いつもそうです。佐藤さんはそう思っているのねで終わって、協議して、それを考えて、何か答えをくれるというリターンがあまり経験がなくて。今回やっと、私が話したことで、こういうふうに本を買ってくれて、利用するところに至るといふ、今回初めてだったような気がしています。

(○梅原花巻図書館長)

今回が初めてではなくて、(佐藤三恵子委員から)「絵本の庭へ」など、いろいろ参考図書のご意見をいただくので、そのたびに4館に入れたり、花巻図書館に入れたりしております。また、佐藤さんから(花巻図書館の)書庫によい本がそろっているというご意見をいただいてから、書庫にある本をこども室のほうに、定期的にテーマを決めて、お子さん方がすぐに手に取れるようにしているのですが、所蔵替えはしないまま出していますので、(システム上所蔵が)書庫1となっても一般閲覧室のこども室に(本が)並んでいるということが随分多いです。(佐藤三恵子委員から)ご意見をいただいてから、司書たちと話して、読みものの本が、どうしても狭いので、奥のほうに入っていたり、書庫のほうに入っていたりということがありますが、それを前に出してきて、テーマを決めながら、「読みものの本はこちらにあります」という表示も増やしながらやって来ておりますので、何もしていないわけではなくて、ただ所蔵替えをしていないので、パソコン(蔵書検索)からは目に見えない部分があるかもしれないです。

(○佐藤三恵子委員)

大変失礼いたしました。よくわかりました。そういうことをしていますと行ってくださればいいんですよ。この会議のところですね。何を言っても何も変わっていない、書庫にいい本があるよと言ってもリターンがない、石鳥谷図書館は目に見えて分かるから、書庫にあったいい本が表に出ているなあというふうには分かるけれども、画面上には出てこなかったから、よくわかりませんでした。

いずれにしろ10年前から、この新花巻図書館構想がずっと、私も子どもが小学生の頃から今大学生ですけど、ずっと新しい図書館を待っているわけです。この10年間の間、小学生だった子どもは大学生になってしまったわけです。それくらいもっと速度を上げていかないと、子どもは出会う本に出会わないまま大人になってしまう。実は花巻市に、側にいい本がいっぱいあったのに、子どもが出会わないまま大きくなってしまったというような感じがするので、もうちょっと

こうね、よろしく申し上げます。

(○坂本会長)

皆様のいろいろな意見をちゃんと取り入れてくださっていることがよくわかりました。これからもよろしく願いいたします。

そのほかにございませんでしょうか。それでは、お1人ずつ図書館に対することでも、新しい図書館に対することでも何でもよろしいので、お1人ずつ佛川委員のほうからお願いいたします。

(○佛川委員)

花巻市の学校図書館協議会の事務局が湯口小にありまして、市内の感想文のコンクールも審査員さんたちが集まってこちらで行います。おそらくは就学前からの読み聞かせや、いろいろな活動が実ったということなんだと思いますが、県のコンクールに市から選抜した部分で、低学年はワンツースリーです。それから、中学年、高学年もぽつぽつと受賞者があって、中学校は確か1人佳作だったかと思います。こういうふうがいい結果が出たというのも、日頃からの皆さんの活動と、小学校に入ってからの指導と、審査員さんたちの目もきっといい目で審査していただいたので、それを市の代表として出ていったときに、県での入賞につながったんだろうなと思います。ということで近々何かで出るかと思しますので、低学年の部をぜひ見てください。最優秀、優秀それから次の賞、1、2、3位と花巻市内の小学校です。

(○菅原委員)

新花巻図書館のサービスで、これは実現してほしいなというのがいくつかありましたので、それだけ話しをさせていただきます。1番「資料と情報の収集提供」というところと、3番、4番、11番。結局、私が言いたいのは、家にいてごろんとしながらでも、何でも見たり探したりできるという、そういうシステムが欲しいなということです。どうぞよろしく申し上げます。

(○堀合委員)

今日の協議会の会議でよかったなと思うところは、新花巻図書館の整備についての時間をたくさんとれたと、そこが非常によかったなと思っております。今までも何度か出していただきましたが、図書館の資料がたくさんありまして、なかなか新図書館について時間たっぷりというわけではなかったように思いますが、今日はたくさん時間が取れてよかったなと思っております。そしてやはり図書館協議会委員の皆様は、場所ということもさりながら、中身のことをたくさん話されて、それも大変いいご意見だったなというふうに思っております。以上です。

(○畠山委員)

今回の会議の前に、県の研修ということで盛岡の県立図書館に行った時にお聞

きして感じたのが、自分は図書館というと、「本」対「人」との関わりというのをすごく強く思っていたのが、話を聞いたときに、その図書館の建物、「建物」と「人」との関わりというので、「本」対「人」だけではないんだなということを感じた研修でした。それを思いながら、今日ぼうっとこの景色を見ていて、この青空をどこから見ることになるのかなと思ったときに、そういう景観のある場所もいいのかなあとか、中身だけでも大事なんですけれども、そこに行くべくつろげる、安らげる、そこに行くとはっとする、そういう場所であってもいいのかなと思ひながら、感じたところがありました。以上です。

(○高野橋委員)

先ほども言いましたけれども、学校図書館のほうにずっと関係していらしたので、たぶん新花巻図書館のことから、もしかしてちょっとずれているじゃないのと思われる方もいらっしゃるかなとは思いますが、今まで学校図書館について話して下さる方が私の周りにはあまりいなかったんです。自分がやっているうちにボランティアだけではどうしても知識が追いつかなくて、使いやすい、公共図書館も同じなんですけれど、動線というか、使いやすい、探しやすい、居心地がいい、こういったものを求められるには、やっぱり司書の資格が欲しくて、10年前に取りました。前に地域コーディネーターをやっていた時に、小学校も中学校もそうなんです、特に小学校はそうなんですけれど、公共図書館は本が読みたい人が来る場所なんです。でも、学校図書館は読みたくなくても先生に「1冊借りなさい」って言って連れてこられる場所なんですよね。選べる子はいいけど、選べない子はうろうろする。その子たちに「これはどう？」って1冊ずつ手渡すことができたのがとても楽しかったんですよ。それこそ学習で調べるために必要っていうものがものすごく学校図書館にはありますので、本当に地域コーディネーターと学校司書とはちょっと別物と考えてもらわないと、地域コーディネーターさんもすごくかわいそうだなと思いました。よろしくお願いします。

(○熊谷委員)

私は図書館に入った時の、あのおいが好きなんです。私は生まれたのは東京で、結婚でこちらのほうに来たんですけれども、当時、東和町には図書館はありませんでした。コミュニティセンターの2階が図書室だったんです。これは公の図書室だったんですけれども、こういうところもあるんだっていう感覚でありました。ただ、その図書室にある方がいて、司書かどうかわかりませんが、入って行って、「こんなような本がちょっと見たいんだけど、どこかなあ」と言うと、「これがある」、「これがある」、「これがある」と言ってパッパッパッと教えて出してきてくださったんです。そこにいる方がとても上手にリードしてくださったというので、確かにすごい立派なところで、(本が)何冊もあってと

というような図書館も大切かもしれないけれど、私はやっぱり人なんだなと思いました。その図書室が図書館になった。合併する前に東和図書館ができました。そのときには私が初めに図書室に行ったときの方はいらっしゃらなかったんですけども、その方は今でも本に関するいろいろなことを、仲間とともにやっているわけですね。私もその中の一員にはなったんですけども、すごい立派なものもできてやっぱりそこは人との触れ合い、私は新しい図書館でも、そのようなことをとても求めます。人との触れ合いが、多くの方たちが、やっぱりあそこに行く心地いいな、あそこに行くとか何か漠然としていたものがぱっと目の前にすつと本で出てきてくれるな、とかってということが分かるのではないかなと思ひました。ただし、やはり新しい図書館は、本当に1日も早く実現して、でき上がってほしいなということは痛切に感じております。以上です。

(○佐藤三恵子委員)

まず初めに、私は図書館司書さんをとても尊敬しているということを申し上げたいと思います。何か誤解のある発言だったかもしれません。よろしくお願いします。

今日お持ちしたのは、「こどもとしょかん」という東京子ども図書館で出している機関誌、年4回出しています。これを私は定期購読しているんですけども、機関誌「こどもとしょかん」を蔵書している県内の図書館は4つあります。陸前高田市、紫波、盛岡市立、一関市立で、この4館なんですね。この「こどもとしょかん」の後ろ(のページ)には、「私たちの選んだ児童室の本」ということで、東京子ども図書館で良しとしている本や買った本などが紹介されているんですけども、県内横断検索してみると、蔵書傾向は明らかなんですよ。一関にはある、花巻にはないとか、そういうことが往々にしてあってですね。私は相互貸借などを利用して一関から本を借りたりしているんですけども、これは市民に提供するために蔵書しているだけではなく、そこで働いている図書館職員の人が共通認識を持つために、おそらく購入しているんじゃないかなというふうに思っています。図書館で働いている司書の方が、個性で仕事をするのではなくて、共通認識で、誰に聞いても正しい、良しとしていることが同じであればいいなと思っています。この人はこう言っている、この人はこう言っているということではなくて、共通認識をして、いい図書館をつくっていくにはどうしたらいいか、子どもに良い本を手渡すにはどうしたらよいかっていうことを、誰に聞いても同じリターンが返ってくるような図書館が理想なんじゃないかなというふうに思っています。よろしくお願いします。

(○佐藤可那実委員)

私は今高齢者施設で働いているので、高齢者と本をつなげたいなあと日に日に

思っているんですけど、本の字が小さいとか、そういう問題の前に大きい問題だなあとと思うのが、高齢者は本を汚しちゃうとか、破っちゃうとか、何かそういう怖さが先に来て、図書館の本を借りられないのかなって、働いてみて思ったんですけど、リサイクルの本があるということを知ったので、そういう本を活用していればもっと本をつなげられるのかなあと。（委員には）ティーンズとか、乳幼児系の方々が多いので、私はちょっと高齢者でいこうかと思うんですが、（高齢者と本を）もっとつなげていければなど。高齢者は天皇や上皇が好きなので、そういう本を渡すと破いて部屋に貼ってしまう。ああ、いいなと思うんですけど、「破っちゃだめだよ」と、そういうのがありますので、ここで私も勉強させてもらって、もっとつなげていけたらと思います。ありがとうございました。

（○坂本会長）

はい、ありがとうございます。高齢者の人たちの集まりのところで読み聞かせをやったことがあります。そしたら、やっぱりものすごく一生懸命聞いてくれるんです。そして、ここ笑うだろうなと思うところはちゃんと笑ってくださって、子どもに対する読み聞かせとまた別の思いがありました。だから、やっぱり読み聞かせは大事なんだなあと、小さな子どもだけではなくて、やっぱり高齢者の方にも大事なんだなと思いました。

それから、佐藤（三）委員は一生懸命、人のスキルについておっしゃっていましたが、やっぱり人材は大事だと思います。一関の図書館も、中心になった人物がいるというふうに聞いております。1人の人が中心になってつくるというのも魅力的なんですけれども、花巻の場合はチーム新図書館で頑張ってもらいたいと思います。よろしく願いいたします。

これで、今日の議題は3番のその他に移ってよろしゅうございますか。
それでは、3番のその他、事務局では何かありますでしょうか。

（事務局ではその他の議題はございません）

それでは、ここで議題は終了させていただきまして、事務局のほうにお返しいたします。

4 その他

・なし

5 閉会（高橋花巻図書館副館長）